

2025年1月19日（日）

千葉県歴史教育研究集会 地域分科会

安房地域の史料からみる図書館

関和美（安房支部・NPO 法人安房文化遺産フォーラム）

1. はじめに

これまで、病院図書館に勤務するかたわら、図書館の歴史や文化活動について調査をしてきた。特に、鴨川の医師・原進一は、鴨川町立図書館長を4年間務めるなど、安房地域の安房地域の文化活動の発展に貢献した人物として注目してきた。

近年、遺族から譲り受けた直筆ノート等には、図書館や文化活動について詳細に記されており、大変興味深い。1949年に県立長狭高校で開催された「学校図書館講習協議会」のメモや、千葉県立図書館「ひかり号」の写真を紹介しながら、戦後の安房地域、主に館山市と鴨川市の図書館の様子を読み解きたい。

2. 原進一（1861-1967）について

1861年、現在の鴨川市生まれる。1912年東京帝国大学医学入学、16年卒業。その後、杏雲堂医院に勤務。1923～26年に東京大学法医学教室に勤務後、東京にて開業。1928年安房医師会に加入。その後1930年に鴨川で開業した。学校医や警察医、安房医師会長などの要職にもついている。1941年鴨川文化協会を結成し、初代会長となる。1951年には、千葉県中央図書館協議会第1回委員に任命されている。1963年に鴨川町立図書館長となり、4年間務めている。

原進一のアルバムには、鴨川で活躍した彫刻家長谷川昂の写真もあった。鴨川市郷土資料館には長谷川の絵画「鴨川海岸原氏邸にて」が所蔵されている。この絵に描かれた原邸は、2024年に取り壊された。長谷川昂の本には、在京中に原進一が横山大観の主治医だったと記されている。原進一の直筆ノートには、近藤啓太郎の名前もあった。近藤は『大観伝』など横山大観について本に書いている。

また、県立長狭高校教員であり、学校図書館活動に熱心であった水野(中島)安芸男や、原進一と共に鴨川の図書館に勤務していた図書館員で、のちに館長となった川名俊子の名前もあった。

直筆ノートにはほかにも、安房地域ゆかりの画家・寺崎武男の名前が記されていた。また柳宗悦にあてた手紙も貼られていた。

3. 学校図書館講習協議会東部講習会（1949年）

1948年、文部省が『学校図書館の手引』を刊行、その趣意徹底と指導者の養成を目的とし、全国を2ブロックにわけ学校図書館講習協議会を開催した。西部地区は奈良県の天理図書館、東部地区は2月15日から3日間、鴨川町の県立長狭高校で開催された。『千葉県図書館史』（1968）によると、各都道府県の指導主事一名、小中学校の代表者各一名、中央図書館員一名とある。

原進一の直筆ノートにはこの講習会の参加証明書が貼られていた。鴨川町立図書館長でも、

県の協議会委員でもない時代に、学校図書館の講習会になぜ原は参加していたのだろうか。『学校図書館の手引』第4章第7節には「家庭およびPTA等の連絡」、第4章第8節には「学校図書館相互および公共図書館との連絡」という項目がある。学校図書館だけでなく家庭や公共図書館にも言及されていることから原が興味をもったのであろうか。長狭高校の水野安芸男との交流があったことも、参加のきっかけとなっているのであろうか。

原進一の1949年2月15日付けの直筆ノートには、「GHQからバーネットと云う方が見られます。図書館係りです。」や「数ヶ月前に県立図書館安房分館視察に見られた」と書かれている。

バーネット (Paul J. Burnette) とは、GHQ 民間情報教育局 (CIE) 図書館担当官 (Library Officer) と思われ、前述の『学校図書館の手引』の編集作業にも関わっていたという。『千葉県図書館史』(1968)の講義内容には、「米国における学校図書館 バーネット」と記されている。今回の調査により、講習会の数か月前に、1948年7月鴨川町に開館した県立図書館安房分館の視察に来ていたということが明らかとなった。今回の報告には間に合わなかったが、引き続き、バーネットが鴨川に来た裏付けとなる史料がないか探してみたいと思う。

4. 千葉県立中央図書館「ひかり号」

千葉県立図書館「ひかり号」(以下「ひかり号」と表記する)は、1949年に1号車の巡回を開始した移動図書館のことである。千葉県は戦後最も早く巡回を開始したといわれている。千葉県立図書館は、2024年3月に100周年を迎えたが、その記念としてブックマーカー(しおり)が配布されたが、そこには「ひかり号」の写真がついていた。

自動車で千葉県内を巡回し、本の貸出だけでなく、映画会の開催といった文化を届ける役割も担っていた。「ひかり号」が停車して本の貸出等を行った場所のことは「ステーション」と呼ばれていた。安房地域に「ひかり号」のステーションができたのは1952年からである。

1972年、「ひかり号」の運営方針の転換が行われた。同年、館山市・鴨川市のステーション廃止となった。その後、1973年に「ひかり号」サービスの転換、1977年に千葉県立図書館「協力車」の巡回開始、1987年に「ひかり号」貸出方法変更を経て、1997年に「ひかり号」は廃止となり、2001年千葉県立図書館「協力車」が全市町村を巡回することとなった。

「協力車」とは千葉県内の図書館や学校を繋ぐ本の運搬車のことである。

原進一のアルバムの中に、写真を発見した。年代や場所は不明だが、看板に「ステーションマスター」という文字が見えることから、1952年の7月30日から8月2日まで小湊町(現 鴨川市小湊)で行われたひかり号運営研修会の写真であろうか。あるいは、1954年3月3日から6日まで鴨川町で行われた第2回全国移動図書館協議会の写真であるかもしれない。ほかにも1955年に館山市で移動図書館研究集会なども行われており、現時点で、写真の年代の特定はできていない。

5. 安房地域の移動図書館車・配本車

安房地域の移動図書館の様子を紹介する。鴨川町では、「ひかり号」が巡回をしていた1965年に、鴨川町図書館にて巡回文庫が行われており、婦人会や農協、病院がステーションであった。館山市では、「ひかり号」ステーションが廃止された翌年の1973年から配本車「しお

かぜ号」の巡回を開始し、1985年からは配本車に代わり移動図書館「わかしお号」の巡回を開始した。

今回、新たに発見した「ひかり号」の写真にあった「ステーションマスター」に着目し、調査を行った。

千葉県立中央図書館に所蔵している『千葉県立図書館千葉県移動図書館関係名簿及規約集』（1958）の安房郡（現在の鴨川市、南房総市、鋸南町）及び館山市のステーション運営委員会の一覧をみると、公務員（役場職員か）がステーションマスターをしている場所が延べ33であった。延べとしたのは複数のステーションマスターを担っている場合もあるためである。ほかにも教員4名や農業、農協職員が4名、商業1名、会社員1名、職業欄未記載1名であった。事務所の場所は、役場（出張所を含む）が31か所、小学校4か所、農協2か所、企業等4か所、郵便局1か所、公民館1か所、個人宅2か所であった。ステーションの場所は地名のみが記載されている本はあったが、どこに事務所がおかれているか、どのような職種の方が担当をしていたのかという史料は、今回初めて発見した。

館山市の広報誌によると1973年の「しおかぜ号」の配本先は、主婦クラブ・婦人会が多かったようである。現在の「わかしお号」は、小学校やこども園、病院や高齢者施設、福祉施設、ショッピングセンターを巡回している。

館山市には団体貸出に関する貴重な史料も残されている。千葉県の協力車に近い役割を持つものであると思うが、1980年に作成された館山市図書館規則の中にある「団体図書利用券交付申込書」の団体種類の中に「婦人団体・職域団体・青少年団体・その他」という選択肢が書かれていた。これはかつてどのような団体に本をまとめて貸出しをしていたのかを想像することができる貴重な史料と言えるのではないだろうか。なお2024年の改正により、書式が変更となり、団体種類を選択する項目が削除されている。

6. おわりに：今後の展望

今回は、原進一の直筆ノートや写真に、裏付けとなる資料を重ね合わせ分析しながら、安房地域、主に館山市と鴨川市の図書館の様子を紹介した。

調査を通じ、戦後の図書館が大きく変わった時代に、原進一は、図書館長になる前にもかかわらず、町の図書館や学校図書館の研修会に参加している様子がわかった。また「ひかり号」に様々な立場の方が地域に本を届けることにかかわっていたことがわかった。

2029年、千葉県立中央博物館の近くに千葉県立図書館・文書館の複合館が開館する予定である。安房地域でも2026年、旧忽戸小学校跡地（南房総市、旧千倉町）にコミュニティセンターと図書館を備えた複合施設を建設予定である。複合施設というのは一つの建物の中に複数の機能を入れればよいというだけではなく、それぞれの役割を理解し、連携をはかることが大切なのではないだろうか。そう考えるのは、2024年7月28日と8月18日に館山市図書館と館山市立博物館の共催で小学生向けに行われた「なつやすみ宿題大作戦 昔の道具を調べよう」に参加したことがきっかけであった。一つの目的に向かって連携し取り組んだ図書館と博物館の取り組みは、まさにそれぞれの役割を十分理解し連携をはかる評価すべき事例であるといえるのではないだろうか。

「なつやすみ宿題大作戦 昔の道具を調べよう」は、当日配布された資料に、「調べたい

ことについて、すべてが本で見つかるわけではありません。「答が見つからない」ことも、一つの「答え」です。そんなときには、調べたことをもとにして、「こうだったかもしれない」と考えてみることも大切です。」という言葉が書かれていた。小学生向けの講座ではあったが、私にとっても、調査をどう進めたらよいかという方向性を指示してくれた。この講座で学んだことは、地域での調査研究の手法の参考となるだけでなく、病院図書館員として、研究したい医療従事者を支援する業務にも役立てられるような内容でもあった。

今回の調査を通じ、私も原のように病院図書館関係だけでなく様々な図書館関係の研修会に参加するなど研鑽に励みたいと思った。また、職場である病院図書館だけでなく、地域においても、研究したい方の支援が出来るようになりたいと考えている。

謝辞

史料を提供いただいた原進一のご遺族の皆様、原進一に関する証言をしていただいた皆様、史料および情報提供いただきました館山市秘書広報課、館山市立博物館、館山市図書館に深く感謝申し上げます。

参考文献

- ・千葉県図書館史編纂委員会 編. 千葉県図書館史, 千葉県立中央図書館, 1968.
- ・原進一直筆ノート「独白帳(物録) OKT48 —Apr15」、写真等
- ・なつやすみ宿題大作戦 昔の道具を調べよう, 館山市立博物館、館山市図書館. 2024.
- ・文部省 編. 学校図書館の手引, 師範学校教科書, 1948.
- ・三浦 太郎. 占領下日本における CIE 第 2 代図書館担当官バーネットの活動. 東京大学大学院教育学研究科紀要 / 東京大学大学院教育学研究科 編. 45 2005 年, p. 267~277.
- ・中村 百合子. 『学校図書館の手引』編集における日米関係者の協働. 日本図書館情報学会誌 = Journal of Japan Society of Library and Information Science / 日本図書館情報学会 編. 50(4) (通号 160) 2004. 12, p. 142~158.
- ・千葉県立中央図書館, 千葉県立西部図書館, 千葉県立東部図書館 編. 要覧 2023 年度, 千葉県立中央図書館.
- ・千葉文化 : 千葉県立中央図書館報 255 号 2024 年 3 月, 千葉県立中央図書館, 2024.
- ・館山市図書館のあゆみ.
<https://www.city.tateyama.chiba.jp/tosyokan/page100032.html> [accessed 2024-12-29]
- ・図書館のあゆみ (鴨川市立図書館 年表).
<https://www.city.kamogawa.lg.jp/site/library/7352.html> [accessed 2024-12-29]
- ・日本図書館研究会オーラルヒストリー研究グループ 編著. 文化の朝は移動図書館ひかりから : 千葉県立中央図書館ひかり号研究, 日本図書館研究会, 2017. 3.
- ・千葉県移動図書館ひかり二十年史, 千葉県立中央図書館, 1970, 10.11501/12399817.
- ・千葉県移動図書館関係名簿及規約集, 千葉県移動図書館後援会, [1958].
- ・広報たてやま 昭和 48 年 10 月号.
<https://www.city.tateyama.chiba.jp/files/300123513.pdf> [accessed 2024-12-29]
- ・だんだんたてやま 2025 年 1 月号.
<https://www.city.tateyama.chiba.jp/files/300389628.pdf> [accessed 2024-12-29]
- ・令和 6 年 6 月 26 日 館山市図書館協議会 資料.
<https://www.city.tateyama.chiba.jp/files/300385298.pdf> [accessed 2024-12-29]